浚世
雜
世間年代氣質
一
へ13
3199
1

世間の人代貴賤
神のごとく雲に昇り長鳴して
ちう鶴のごとく天に飛ぶ
真実の家業を賢人
[illegible]
[illegible]

特 へ13 3199 1-5
へ13 3199 1
昭和九年十月三日 購求

世間五代記序

帝国図書館蔵

龍のごとく雲に昇るい其鱗して髮あるふ
ゑ鶴のごとく天に翔るいとの羽翅あるはたら
其外家業に賢くても助る手代なくして
拘撃敵いがたく福をよく出して富和を利を
得るいとの家に手代の働さ一つぞ已手代又
是程に尽しいとも手代年功を積て是程な
まで次第にとの是程に成と抱し主人の

夫紙布ハ人間恩を知べし氣の出ぬ己が
勤よりも私欲を考ふ心ゲ者い是れの
果てハ平代氣質集
こゝ直に題号をやり居人いとく多い
悪き人いとく所ん先し給へ

高橋十次郎著述

作者 其磧

世間平代氣質 一之巻

目録

第一 出世の門ハ搔る花契俳諧業精
人を抓て乃る天稟性目のない親方
合作の抓技ハ菊之子伺の女人
平代ハ小者ハ智し者と考和店

第二　東陵に戒を折人参きたれるの記事の事

義興より国光のたぎりの茶湯を
夫婦の面で翻ひめさ野田の生活
古事を考へて昔を打ち寄せ貧乏袋

第三　最初の富士にいたる東海の景色

富士の代判押こかまて家門の支配
高くたちて形見いなて悔しけ生涯
釈ち信ち今浪毎日おて廊通ひ

一　出世門閥を働き義賑い幸の種

夫士農工商は民大の家来の働きにつて其人倉とれぬ
知ら年年分て商人は代代れ其人富生み。其人を傷
す。代者西は方人の行ひとつ代は性根次第で武
家は方の行儀面くを家は控嵩けを意は乳俗そこ
君臣はたらく叶ふ。町人は拵を第一の家業につて義
中片孔ぐ。其河とか家どいそぐけを也者も世ど。家傷み
つとむを大商人はてまう世ける金とうけてさわてぐ賀番と
なぐそこう指とつて。主人と物いはなそも。商ひの精さ出世で
主法は乳俗と設ける幸もの。まぐ内俗どがさぐんて。代は是法
いつくやうの町人は家の風信。月墨流ろ義つて。大事は主人と雑ゆ中

ごうにはるかなり。表裏をかへて仕出し。利徳はかりとて、をごり。換に新方にづけ。仲人の者へも
賞を施して仕出し。利徳はかりとて、をごり。換に新方にづけ。一生貧にわけ。とて拐男の為に終る
この時分に新弟子に駆使とうけ。一生貧にわけ。とて拐男の為に終る
以上人を安くやとう仕換。を為に悪とあるまじ。世かいくらを見へけ。
のぎきらいめに締めて孝考してかをを代に新こめにやるまじ。とかをを
代に表かづけひら張て来て。上人に徒とつけ。汚も欲ぞ表わるきもせぬ。
律義者に表に行事もうちだにかをを。貧ひを虧せぬ所に見に気わどの
風状もなく。換もうけぞ毒にも業にもなるぞ。せんでやうつ。だとく。考うち
働きもなくて。ひとうまとあるを代をかをこるれも。会合をとふかもも
なくの。貧ものとも。借銭もせずだ。銀ものをさず。一生女まにと喰て
とうとうとあるを代に人うかさてうつて。貧ひるもをそれ。思ふか
のうけてわたがまもわきど。生涯に人家の方事にけうとうてかりとあく。上形に

代利ををとむ。あるうか金もかうさををとうわどにて人に家にをこをを。ういい
を代とうにかの。稀かに。ををうう人に代家をの。稀かに。ををの。うう。時ぞう。表に十市に黒に。
又他をに。百姓わう。律義者に表をを。人中をを。拾をに。を。を。園う。事出を半を人
拾ぞに。角度他うに。わをまく。他かに。多に。月も表ぞうをを。をかうに
他うをを。と表をいかの。と。嗜ぞを。見に。屋ぞうを。野に出て。鄙に。先祖
働けど。又十余を。を。う。者は。女表に。麻布に。織の。長屋に。人に。手機とたて。
南を。社家の。に。に。屋。寝せ。表に。天秤に。金に。表の。表。ぞう。表に。人と
人に。機に。ぞう。男を。とうう。に。金に。表の。に。表。を。に。に。
表を。浮に。を。表に。十を。に。に。に。に。に。に。に。に。に。
を。を。常に。に。嬰を。見に。ぞう。時に。ぞを。表。を。に。に。
に。も。を。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。
に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。に。

そちゃ
ものつひ
やつはで
めさうぐ
ろうへ

ぶんべい
うぶむりや
さうろう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年の内に成相観音へ参詣いたし、帰りに
鳥羽の宮へ立寄、豆腐元祖の家に買物
喰ふ。左而は去年とうり元年代無かと利ださそちいさいの
分家の代を代り新しく元年代おろもさそれ時分にて
まつ〳〵と手ごろ成物にて仲の悪き
てゐるゞ〳〵山に長年彼岸入とて墓
参拝の中に仏壇に立出、黄餅黄こびとこ
雲拝の中に仏壇に立出、黄餅黄屋とつきつけてゆふも知ず同じ銭
出てゆふ〳〵と撰てれば、爰へ拝ものこと弥発れ黄餅へとり老母金うけて
出れとれのと撰ゝ問ふ。おまつて居ゝ
角屋敷門構元性ゆゑ出で懐無やきを代れ黄餅へ

中入でとりあ出で黄餅を大きに茶屋
へ持ゝ粉にゝ成れ賞へ〳〵の出ゞ
ゝ茶屋及凡弥代を代を〳〵出強て年〳〵百と始てまべ出といろ〳〵宣
拝代代代ゝ出ゝ拝ゝ出ゝ拝ゝ出ゝ拝

ぎりて銭ものこる百枚わつさに百枚わつさに百枚わつさにとりけ
わそ銭ものこりて銭ひけのもろ〳〵銭ばかりなりとそれに数の多い
いつさまもろ〳〵事片銭のもんそくを彼ぬ銭の銭餅ごさるなど一枚目にかりてゐる後今
さまだ〳〵に枚ばかり目をなごさるなどわれ勝てゐるなどを集め拾目とりけ
ていに流なるまつ〳〵百目ばかりに百枚弐百目ばかりに弐百枚つの知まを事ばかりに
のこりまつ〳〵ばかりに銭ひとつ世大勢の銭代を見てまた片銭ばかりもんべ
一枚ばかりとりて見に枚を銭ばかりにまつ〳〵てばかりに彼ものこりて銭ばかり目
百六十文ばかりもの銭ものこりに彼ばかりに銭ばかりに百文ばかり拾目ばかり拾目ばかり
まそ七十文文まそ銭ばかりに銭ばかりに銭餅とりて七十文文つりけに銭餅
銭ばかりに銭ばかりに銭ばかりに

上総の国の[illegible]の下に[illegible]と申す[illegible]代官[illegible]と申す[illegible]
[illegible]
[illegible]

事ハ金八月のわらはとのふすのもてしめゝ人ハつゝひゆゝとゝろふひとゝ
ゝ新ゝ系表ゝたゝ系ハ表ゝろゝ人ハわゝろゝ人ハゝ木ハゝ系ゝつゝむゝ美ゝゝ
ゝ家ゝ人ゝゝ表ハ一ゝ表ハ一ゝ熊ゝ人ゝゝ表ゝゝ待ゝ月ゝゝけゝつゝゝ
新系ゝろゝ表ハゝゝゝゝゝゝゝ代ゝゝゝゝゝゝ表ゝ
事ゝゝ表ハ酔ゝゝゝゝゝゝ張ゝゝゝ人ゝのゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝ高ゝゝゝゝゝ蘭ゝ事ゝゝゝゝゝゝ
封ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
だゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家継の家の伝継ぎ[illegible]川向ひの[illegible]新宅に移りぬ[illegible]
[illegible]守りて[illegible]
[illegible]
[illegible]

金銀は何事も。あるが不判にて。何ぞ。なるべき。
目論見。なる。元手。拵へ。無くて。
元手。拵へ。なるべき。
つくづく。思ふに。十三歳の。親。
感じて。
今十三歳と。世なる。人に。
偽って。
月の。
今日より。
偽者。
座敷。
まりの。

難儀。
きっと。法。
ぐ。
親。
十三歳の。軍。
ぎっと。
破滅。
ひとつも。
出。
三歳。
親。
百。
見みの。
と。

時あつかうがひ出。次第に年をかさねて。承中九番医者格。さてはまた名今
で生死は拾貝ゆえ入けるが胴とちがさど一家一門ちくさを長と拾う拾なか
立家をこの方拾年で一ぱいざるを安いとて地獄は方へ書翻くさ金を書
幸し金佛上成ゆえ。さてやけ枕。伝法中服はんひくさ親さでは年七十六人
百廿寿命。五十年上宮やれ枕。ちくあつて世又年は世徒をこの三十日死の
剃とのつて枕九三十年ちくちくを年歌はうけわりて今日浮世は紙面。さ年世浮
て隔蹴の年はけ枕ゆえ伝とうあひおを年を背ちう
長者三代ちくと上人は丸年は世三七年。代世年とんで代年の生為と守り家
獄は浮ちくを年ゆえ。伝年仏意はは人集して費ちう年作ちゆえ長男を元代世
みひかさちゆえ。ちくとちゆく性生せ年おう枕寿三七人九ちゆえ世又家ちう。
世年一つさちくを長者ちゆう五千九百九年一門長代を拾ゆえ。ゆえ年を三枕と
拾くを拾寿を枕。親類を人長代を拾ゆえ。ちくとちゆ

ちゆ。年を三枕はゆえ行は年ちゆ。一生は拾ちゆ寿はゆえ。ちゆ浮ちう寿はちう
年をちゆ年ちゆ。ちゆを拾と寿ちゆ。ちゆを拾と寿ちゆ。ちゆを拾と寿ちゆ。
寿くを寿はゆえ。ちゆ拾ちゆ。三七年ちゆ伝徒を年ゆ。ゆ物ちゆ枕九食拾ゆ。
寿ちゆ。ちゆ拾ちゆ。ちゆ拾ちゆ。ちゆ拾ちゆ。ちゆ拾ちゆ。ちゆ拾ちゆ。
伝ちゆ拾ちゆ。ちゆ拾ちゆ。今を三代世浮ちゆ。ちゆ拾ちゆ。ちゆ拾ちゆ。
ぐ代を年枕。惜を年ゆ年を枕ちゆ。ちゆ拾ちゆ。ちゆ拾ちゆ。ちゆ拾ちゆ。
ゆ年ゆ。ちゆ拾ちゆ。ちゆ拾ちゆ。ちゆ拾ちゆ。ちゆ拾ちゆ。ちゆ拾ちゆ。
ちゆ拾ち

親文ちゃうじ。風俗やうふかう。
きゃうじ。親の文盲を憂ひ。
むらぬ者数。ずいぶん。
数寄屋とたて。者れ招かれ
ぜ。代も万れ乗ふ。
親。今れ上方のひつき。
と。商人の家の囲ハ。
傳傳ちゃうけれ切ぜう。
荒車ゆゑ。暗ゞ。
ぜ。ちゃうふ。
出。
て。絹布。

ゝ。
傳ぜ。
ハ。絹
ぶく。
ぶ。
ぶ。
ぶ

うけの山氏大臣。才一ゐ人にて至れるに。狐拍て紀ゐ中ゐて。ほうふうにて。ゐ年中潔ゐ。ゐげ。紙ゐ。狐。海にて。実まゐ。ゐけ。ゐ。雑ゐ。美好ゐ。ゐ。ゐ。